



次世代多目的コホート研究 (JPHC-NEXT) 研究計画の概要

あなたにも、次世代の健康にも、きっと役立つ！





次世代多目的コホート研究を開始するにあたって

がんや循環器病など、一度かかってしまうと治療が困難で、日常生活の維持が大変になってしまう病気に対しては、予防に最大限の力を注がなくてはなりません。こうした病気は生活習慣と密接な関わりがあることがわかっています。

その反面、同じような生活習慣を持っている人のなかでも、病気のかかりやすさには個人差があることから、生まれながらの体質（遺伝因子）も病気のかかりやすさと関係していると考えられています。

生活習慣・生活環境と遺伝因子の両方に注目しながら、それらががんなどの生活習慣病にどのような影響をあたえているのかを解明することは、体質にあわせた生活習慣病予防法を進展させるために大変重要です。

そうした影響をしっかりと見極めるには、実際に日本に暮らす人々の集団を長期間観察することで、科学的に精査してゆく他に方法はありません。

今回の研究プロジェクトに先立ち、2015年現在65歳から91歳になる、戦前、戦中、戦後すぐに生まれた方を対象に行われたコホート研究があります。1990年に開始されたこの多目的コホート研究は、対象となった住民全体の8割を越える方のご参加により成立し、約25年の追跡期間を経た今、

皆様方がどのような生活習慣をすれば、がんや循環器疾患を予防できるかについて、ある程度のことを明らかにすることができました。

そうして得られた知識をもとに、この研究にご参加いただいた方に対して、アンケートの回答をもとに、お一人お一人に対して、どうしたら健康でいられるかについてのアドバイスをお知らせしています。まずは、これまでの研究の成果を、皆様の健康づくりに十分に役立てていただくことが大切と考えています。

ただ、これまでの研究では解決しない部分がまだ数多く残されています。また、戦後、日本人の生活習慣は大きく変わってきています。さらに、最近の研究や技術の進歩により、血液などから、生活習慣病に役立ついろいろな情報が得られる可能性が出てきました。そこで、皆様方のご協力により、次の世代の方々にもつながるような、より確かな健康づくりのためのコホート研究を立ち上げ、予防のための研究を途切れさせずに受け継いでゆく必要があります。

この20年ぶりに立ち上げられた新たな研究の趣旨を、多くの方にご理解いただき、皆様方で自身の健康への意識を高めていただくと共に、次の世代の方々、より確かな健康づくりのためにもご協力いただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

研究代表者: 国立がん研究センター
社会と健康研究センター(旧がん予防・検診研究センター)
センター長／予防研究グループ長 津金 昌一郎

知りたくないですか？ 伝えたくないですか？

健康で長生きするための 確かな知識を！

三大生活習慣病といわれる、〈がん〉〈心臓病〉〈脳卒中〉。この3つの病気で、なんと日本人の死亡原因の3分の2を占めています。国民の2人に1人が、がんにかかるという時代、もはや他人事ではないのです。日本人の生活習慣・生活環境が、がんなどの生活習慣病とどのように関わっているのかを明らかにするため、『次世代多目的コホート研究』が始まりました。

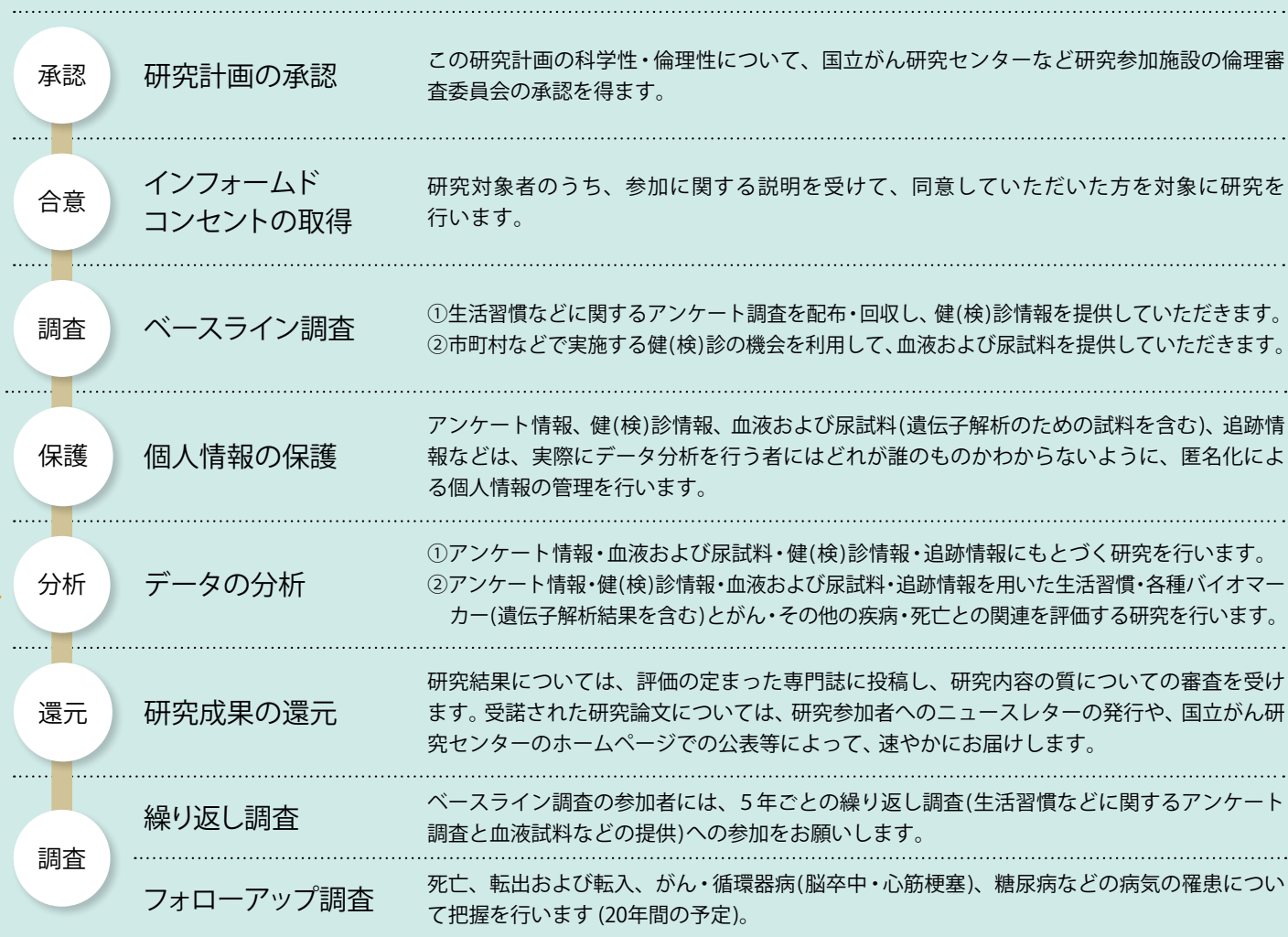
対象となるその他の生活習慣病

循環器疾患、動脈硬化性疾患、高血圧症、肥満、代謝性疾患(糖尿病、耐糖能異常、脂質異常症、高尿酸血症など)、肝・胆管疾患、腎疾患、呼吸器疾患、血液疾患、骨粗しょう症、骨折、精神疾患(うつ病、認知症など)、眼科疾患、歯科疾患(う蝕、歯周病など)など生活習慣が関連する可能性があり、予防が期待できる病態、疾病、障害など。



次世代多目的コホート研究 (JPHC-NEXT) の目的

皆様からいただいた生活習慣・生活環境に関するアンケート情報・健(検)診情報・遺伝子解析結果・追跡情報などを活用した医学的研究を行い、国民の健康の維持・増進、**がんやその他の生活習慣病の予防や治療に役立てること**です。また、本研究で集められたアンケート情報・健(検)診情報・追跡情報は集計データとして対象地域の健康づくり対策にも生かされます。



研究実施のための体制づくり

研究を円滑に推進する研究チーム体制の確立



各地域研究チーム

現地調査(フィールドワーク)を実際に行うチームです。各地域の実情に即して研究計画を実行します。対象候補者に研究についてお知らせし、理解を得て、ひとりでも多くの方に研究に参加していただくことが、この研究の質を高め、支える土台をつくります。また、長期にわたり追跡情報を収集する、地域における研究の拠点となります。



中央研究事務局

研究計画をたて、予算を獲得し、それが各地域研究チームによってスムーズに実施できるように事務的な支援を行います。研究の命ともいえる大切なアンケート情報や追跡情報を含む研究資料を中央で厳重に維持・管理します。さまざまなレベルの会議を招集し、研究を円滑に運営するための意思決定を促し、決定に応じて各分野のマネジメントを行います。



研究解析チーム

個人情報から切り離された研究資料を用いて解析を行います。本来の目的である要因と疾病の因果関係を解析するためのデータの蓄積には10年以上がかかります。それまでに、まず調査の精度を調べる妥当性研究や、調査結果についての横断的なデータ解析による報告書を作成します。また、研究計画の立案、資料の解析の準備、国内外コホートとの連携も大切な仕事です。

研究手順とパイロット調査

研究地域の選定

- ・収集項目の確定
- ・調査票の作成
- ・実施手順書作成
- ・同意書の作成
- ・人員配置計画
- ・予算



パイロット調査

- ・実施手順の修正
- ・人員配置の修正
- ・予算の修正

☒ 追跡体制の決定

☒ 追跡手順書作成

チーム構成



研究者
(疫学、ゲノム他)



行政関係者



医療機関関係者

- | | |
|--------------|---------------|
| ● 国立がん研究センター | ● 大学・研究機関 |
| ● 地域保健所 | ● 地域基幹病院 |
| ● 地域健診機関 | ● 連携コホート関係者 … |

研究スケジュール



想定される対象地域と連携コホート

データの分析

2015年3月現在、長野県佐久地域、秋田県横手地域などでパイロット調査が開始されています。そのパイロット調査地域も含め、今後、日本各地の数地域で、さまざまな形の研究連携により、合計10万人以上の方々の強力をえて、本調査が行われる予定です。

選定にあたってのポイント

これまでに培ってきた、コホート研究運営の経験から、私たちは、この次世代多目的コホート研究の連携地域を選定するときに、次のようなことが大切になると考えています。

- 住民ベースであること
- 基幹免疫学研究者の存在 (収集情報と追跡の質の管理に不可欠)
- 共通プロトコルの使用
- 地域保健・臨床情報をカバーする基幹病院の存在
- 地域市町村の協力 (住民情報収集に不可欠)
- 地域保健所の協力 (死亡情報収集に不可欠)

Map

次世代多目的コホート
対象地域と連携地域 (2014年7月現在)



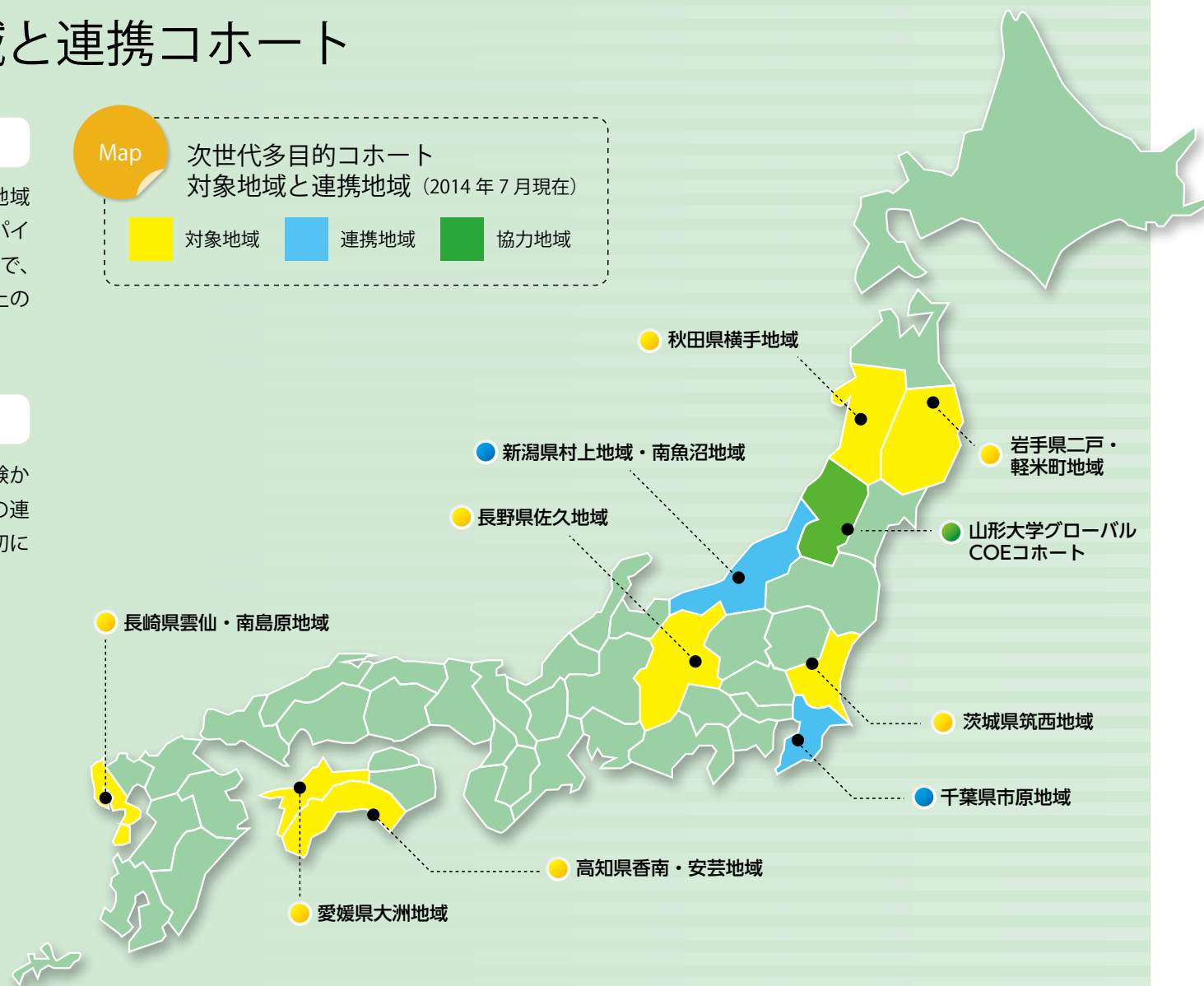
対象地域



連携地域



協力地域





〈 次世代多目的コホート研究 〉
についてのお問い合わせは

● 中央研究事務局 ●

国立研究開発法人 国立がん研究センター 予防研究グループ

〒 104-0045 東京都中央区築地 5 - 1 - 1
電話 0120-220-510 ファックス 03-3547-8580
<http://epi.ncc.go.jp/jphcnext/>